

広報

土 屋 新 聞



第 8 号
発行所
(株) 土屋
土屋新聞
土づくり編集部

回復と自立を願って。 母と息子が歩んだ9年間。



<プロフィール>

名前：能勢恭太郎

年齢：20 歳

状態：交通事故による重症頭部外傷・意識障害。

インタビュー：能勢雅美（母：花屋を経営する傍ら、フラワーアレンジメント教室を開講）

小学校5年生のとき、能勢恭太郎さんは交通事故で意識障害となりました。今回は、お母様に事故当時の状況、そして苦しみを経て在宅生活に至るまでの経緯と、恭太郎さんの今これからをお聞きました。

突然の事故、そして…

息子が小学校5年生（11歳）の時に交通事故に遭いました。ノブレーキの車に15mくらい跳ね飛ばされて、心肺停止の状態でした。病院に搬送。手術室でも心停止して蘇生はしたものの医師からは「生きられませんか」と言われました。一晩明けて、もう一度手術を受けましたが、その時も同じ状況に陥って「これ以上何もできない」と。けれどそれから2週間くらいが経過して峠を越えた感じです。ただ医師からは「仮にこのまま生きられても意思の疎通と身体の動作はできません。目でものを追うことができないでしょう」と。回復はしないと言われました。

生死をさまよった2年間

最初の2年くらいは状態が安定せず、敗血症など怖い感染症をずっと繰り返していました。ほとんど寝たきりで過していたし、ICUから一般病棟の個室に移っても、そこから出られま

せんでした。高熱や脳出血などが繰り返されて、想像を絶するようなことが次から次へと起こる日々で。そんな状態がいつまで続くのか、その間、息子はずっと苦しい思いをしていました。

母として

私自身は始めは何が起きているか、あまり分かってなかった。現実離れすぎて、だから逆に前に向きだつたし、生きてさえいれば治るって信じていて。けれど4か月くらい経った頃から現実感がじわじわと湧いてきて、そこから自分が普通ではなくなっていきました。家に引きこもって、一切誰にも会わず、誰とも話さず、とにかく病院と家を往復していました。けれど息子があまりにも苦しそうで、人が死にかけてるときってほんとに尋常じゃない感じで、こっちが見てられないというか、そういうことが2年間で何回もあったので私自身が「もう無理」と、何回諦めか

けたことか。毎日その日をやり過すことしか考えられませんでした。「今日は死ななかつた」、翌朝は病院に行つて「生きてた」って。怖かったです。ずっと恐怖の中にいた感じで、回復とか未来とか将来といった言葉も聞きたくなかつたし、文字で見たくもなかつた。夢とか希望とかも勘弁してくれつて。だからテレビも見なかつたし、新聞も読まなくなつて、ラジオも音楽も一切聴かなかつたです。世の中と隔絶された2年間でした。

病院から出よう

2年近く経つて感染症の危機からは抜け出せませんが、胃ろうを作っても栄養を入れられない状態が続いて。体は細くなるし、体力もどんどん落ちていつて何をやるも悪循環でした。でも、次第に少しずつ栄養が入るようになって体重も増えて、死ななかつて思えてきたから少し希望が見えてきました。それでもまだ家に帰れるとは思えませんでした。けれど、大病院での入院が4年近くになって息子も15歳になったし、病院から出よう、家に連れて帰ろうと思いはじめたんです。

NAVSA

大病院から直接在宅への道筋があまりなく、ワンクッション置く意味で、もともと入院を考えていたNAVSA（独立行政法人自動車事故対策機構）の委託病床がある中村記念病院（札幌）に移りました。NAVSAの委託病床は、交通事故の重傷者はかりを受けて入っていて、在宅に向けて3年間手厚いリハビリが受けられるので、そこで2年半過ごしました。結局、入院生活は全部で6年半に

も及びました。

*NAVSA：国土交通省所管で、自動車事故の発生防止や被害者への支援が主な目的

退院までの道のり

普退院を考えた時、息子は17歳で、重度訪問介護制度を受けられる年齢ではなかつたんですが、15歳以上であれば特例として受けられるケースもあることを聞いていたので、まずは相談室に行きました。最初は生活介護で、ヘルパーさんが使えるのも月に90時間と言われました。でも、それでは在宅生活ができないので役所に交渉しました。息子の様子を見てもらったり、今までの経緯や状態を説明したりして、繰り返し交渉して、重度訪問介護の給付を認めてもらいました。400時間を切るくらいのスタートだったと思います。

そして、今

在宅生活も3年目に入りましたが、回復も本当に少しずつですが、し続けていると思います。良くなったことはたくさんありました。今も寝たきりで気管切開・胃ろうもあって、自分からの意思表示は何もできないです。手も足も思い通りに動かせません。けれど、身長も今では175センチくらいになって、体重は約60キロ。身体も成長して、体力も少しずつついて高熱は出なくなりました。意識障害の面では、最初は表情も一切ありませんでしたが少しずついろいろな反応を見せるようになったり、目でものを追ったり、「こっち見て」と言ったら見ようとしたり。今では私たちの会話を聞いて、声は出ませんが、肩をゆすつて笑うこともあります。私は息子は言葉や会話をほぼ理解していると思っていますし、医師にもそのように言われました。だから息子にとって、自分か

ら何も表出できないことは大きなストレスになっていると思います。こういうことから息子には、ちょっとしたでも苦痛がないようにベッドでもなるべく楽な姿勢を作ってあげたいし、服のしわなどのストレスを減らしてあげたいと考えています。

やる気と自立

今は訪問介護や訪問入浴、訪問リハビリ、訪問看護、訪問診療を受けて日々過ごしています。余暇はテレビや映画を見たり、自宅でできるリハビリをしたり、なるべく外出するようにしています。事故に遭うまでは少年団に入っていたサッカーばかりやっていた子だったので、外の空気を吸ったり、太陽の光を浴びるのが体調の面からも大事だと思って。サッカーの試合を見に札幌ドームと一緒にいたり、大きな公園で散歩したり、富良野のラベンダー畑に行ったり。ヘルパーさん2人をお願いして、キャンプに行つてテントでも寝ました。

これから

1年ほど前に札幌で非定型という制度が始まりました。重度訪問介護の時間数はMax720時間ですけど、それ以上の時間が必要な人には必要な時間数というもので、私も申請して今780時間いただいています。実はヘルパーさんを二人体制にしたらついでにトイレの練習がしたいんです。1日1回でもトイレで排泄ができた息子にも刺激になって、もっとやる気になるかもしれない。

入浴も、週2回の訪問入浴と清拭はしていますが、二人体制が取れたらシャワーキャリーを買って、シャワー浴だけでもきたらと考えています。いろんなことを試して、少しでも息子の自立に向けて歩んでいきたいです。私たちも生きているうちは頑張れるけど、親亡き後を思うと、どうしても他人の力に借りなきゃいけない。息子がこれから少しずつ回復していても、結局生活するのは息子なので、私たちが今やるべきことは環境を整えることだと思うんです。これから息子が少しでも自立できることが私たちの安心につながっていくので、そのために、周囲の人たちとの関わりや過ごしやすさ、行政では該当基準が非常に狭く設定されていて、その基準に当てはまらない場合は「使えませんが」で終わってしまします。それだと、違った状況にいる人たちが使える制度にはなりません。もっと柔軟な対応と制度運用をしてほしい。そういう風に変えていければ、とても嬉しいです。

最後にヘルパーさんへ

家族として今後の回復を諦めてはいませんが、回復の鍵は日常生活の過ごし方にあると思うんです。息子は、一緒に長い時間を過ごしてくれるヘルパーさんとの関わりの中でいい方に変わっていくと思うし、実際にこの2年半ですごく変わりました。ヘルパーさんは家族に一番近い他人として関わってほしいと思っています。

土屋の統合課程

株式会社土屋では重度訪問介護ヘルパーに必要な資格である、重度訪問介護従業者養成研修統合課程を土屋ケアアカレッジにて開講しています。講義、演習、実習の合計20.5時間、3日間の研修です。この課程には、喀痰吸引等研修第三号の基礎研修に相当する研修も含まれているので、受講生は医療的ケア（喀痰吸引と経管栄養）の講義を受け、演習の時間に人体模型を使って手技を学びます。講義はコロナ禍の特例措置により現在はオンラインでの開催です。ノーマライゼーションや障害者運動の歴史、見守り介護の重要性を伝える時間もあります。土屋ケアアカレッジの特色として、毎回障害当事者や元大学教授がゲストとして参加し、重度障害者の地域生活やコミュニケーション方法、優生思想についての話をします。実習では、実際の介護現場に足を運び個別ケアのあり方を学びます。各カレッジでは研修室での実習を行うこともあります。ホームケア土屋のクライアントが来室し、実際の介護現場と同じような環境になるよう備品を整えます。研修室での実習は、受講生が複数となることから質問が出やすく、クライアントも介助者への思いを伝えやすいです。

こもちゃんTV 番組表 (予定)

株式会社土屋の最高文化責任者であり、障害当事者でもある古本聡（通称こもちゃん）とさつくばらんにトークしようという番組です。見るだけでもよし、参加してもよし。みんなで気楽におしゃべりしてみよう！お顔出しNGの方もビデオOFFでお気軽にご参加ください。こもちゃんTVのPWは510です。



日付	開始	内容・ゲスト
11/19	14:30~	1周年イベント
11/26	14:30~	テクノツール (株) 代表取締役 島田真太郎さん
12/3	14:30~	ネクサス 代表 野呂一樹さん
12/10	14:30~	PFF 入選作『へんしんっ!』 石田智哉映画監督
12/17	19:30~	夜のこもちゃんTV (ヨルこも!) 第2弾

家族あるある 障害者って何？

私は、私達夫婦の様子を撮って「こもちゃん&ゆみちゃん」と名付けて動画配信をしています。脳性麻痺の障害があっても家族と暮らす優しい普通の人だとして知って貰おうというのが狙いです。彼は仕事の二つとしてアテンダントの資格取得時に受ける講話を受けていて、「人は誰しも障害者である。その障害が産まれた時からのものなのか、後天的な事故や病気によるものなのか、歳をとってのものなのか、違いはそれだけなのだ。」と、ちょっと固い感じのお話しをしています。彼は自身の出生時の事故で息をせず産まれて脳性麻痺に。そして私は、娘が「顔から出よう」として産道に詰まりました。為、産道破裂で大惨事になったという経験があります。また、クライアントやご家族のお話しからも、障害があることは決して特別なことでも他人事でもないのだと感じています。ですから講話を聴きながら、皆が他人事と思わなくなれば、街の造りや人の心がバリアフリーになり、生きていくのに必要な助けが必要な人に渡り、「障害者」という概念もなくなつて差別がなくなり、「配慮が必要!」と叫ばなくてもよくなつて生きやすい世の中になるよね。と、彼の横顔を眺めながら思っています。こもゆみ

広報土づくりへの

ご意見・感想

今後取上げてほしいテーマなどをお聞かせください

ご意見・お問合せ窓口

client@care-tsuchiya.com

株式会社 土屋

2021年9月現在

総アテンダント数：1312名

総クライアント数：594名

土屋ケアアカレッジ：12校舎

ホームケア土屋：46拠点 (41都道府県)

訪問看護ステーション土屋：3拠点

